

個の能力を伸ばし、自立して社会の形成者となるための資質を養う教育の推進

月中だより

令和8年2月27日

第11号

月形町立月形中学校

発行者：橋本 孝博

学びはいたるところに

教頭 櫻井貴幸



先日閉幕した冬季オリンピックは、各メディアで大きく取り上げられたこともあり、保護者・地域の皆様、全校生徒のみなさんが知るところであります。私は、「今大会も多くの感動的なシーンを届けてくれてありがとう。」という感謝の気持ちが一番です。なぜなら、アスリートの方々がオリンピックに出場するまでのエピソードを知ったり、大会本番でのパフォーマンスを観て、一般人である自分には、通常の生活で得ることのできない多くの気づきや学びの機会があったからです。

1. 自分自身で、いつ、何を、どのようにしたのか
2. どのような立ち居振る舞いを心掛けたのか
3. 協力者はどのようなサポートしたのか
4. 本番では何を意識してパフォーマンスしたのか

これらはアスリートの性格によって、三者三様ですが、共通点を見出すと、目標を達成するために必要な行動が浮かび上がります。そして、最初は手本を参考とした人真似のスタートだとしても、最善を尽くす中で多くの葛藤を経て自分流が確立し、「唯一の域」へ到達したことがわかります。他のスポーツやスポーツを題材としたマンガを読んでも成功するキャラクターの方向性は同様です。（ひたむきな努力は人〔自他〕を動かし未来を切り拓くパターンが王道）

本校では今年度、学習に対する意欲を高め、深く学ぶ方法の習得を目指して、探究的な学習を教育課程に導入し、取り組みました。自分で設定した課題の解決を目指し、自力での調査、他者との協働、メディアの活用による深い学びの結果、学習で得られる喜びを知り、表現力の向上が成果として現れました。

月形の子供も達は素直で学習の吸収スピードも早く、たくさんの可能性を秘めています。自分で力を伸ばしたい分野を選択し、前述のように考え、突き詰め、ゴールに向かって前進していくことに期待しています。

まさかオリンピックの金メダルとノーベル賞のメダルに触れるとは

「スーザン・フランシアさん、ライアン・エイモスさん交流会」2/3 図書室

スーザンさんご夫婦は、お子さん達に雪の降る静かな町での生活を体験させたいとの思いで、3週間にわたり、花の里こども園の保育園留学制度を活用し、月形町に滞在されていました。この機会に、町民の方々と交流を望まれていたため、本校も交流会を実施しました。スーザンさんは、夏季オリンピックのローイング（かつてのボート競技）8人乗りにおいて、2大会連続金メダルを獲得されている方です。当日は、競技の特徴や競技中の気持ち、現在の生活、何を考えて生きていくべきか等、お話しいただきました。本校生徒からの英語の質問にも丁寧に回答されました（英語が通じました！）。最後に、ご本人の金メダルやノーベル賞受賞歴のあるお母さまのメダルに触れさせていただくなど、二度とないような経験ができました。



